

器具の分類

Q 3 どのような観点・方法で分類して保管すればよいですか？

器具の分類・整備の方法

(1) 理振基準によるもの（計量器、実験器械器具、野外観察用具、標本、模型）

長所： 全体的にすっきりと分類できる。

短所： 理科に堪能な教師でないと分かりにくい。

(2) 領域別によるもの（生物とその環境、物質とエネルギー、地球と宇宙）

長所： 全体的にすっきりと分類できる。

短所： 理科に堪能な教師でないと分かりにくい。

(3) 学年別によるもの

長所： 取り出しやすく、準備に時間がかからない。

短所： 同じ器具・器材を用意しなければならない。整備・維持に費用がかかる。また、実験が画一的になる。

(4) 単元別によるもの

長所： 取り出しやすく、準備に時間がかからない。

短所： 同じ器具・器材を用意しなければならない。整備・維持に費用がかかる。実験が画一的になる。

(5) 使用頻度によるもの

長所： 取り出しやすく、比較的準備も簡単。整備・維持しやすい。

短所： 実験材料の把握が必要。後片づけにやや時間がかかる。

(6) その他（併用型）

器具・器材の分類の方法は、いろいろ考えられますが、それぞれに長所・短所があり、一概にどれが良いとは言えません。学校の設備や、スペースなども考えて分類することが必要です。ひとつの分類方法にとらわれるのではなく、いろいろな方法を併用することが望ましいと言えます。例えば、

①使用頻度での分類を主に、理振による分類や学年、単元別の分類方法の併用

②小物類は使用頻度で、備品等は理振や単元別に分類（逆の分類もある）

③全体の整備を何割かにとどめて、残りは学年で独自に整備する（いろんな実験を計画していく場合には有効）

など、いろいろ考えられます。全教師の共通理解のもとに方向を決めれば良いと思います。しかし、どんな方法で分類し、使いやすい環境を作っても、後片づけの徹底や補修等の維持管理をきちんとしなければ、意味のないことは言うまでもありません。